

## 令和元年度宮津市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和2年1月16日（金）午後2時00分～
- 2 場 所 宮津市福祉・教育総合プラザ（応接会議室）
- 3 出席委員 宮津市長 城崎雅文  
宮津市教育委員会教育長 山本雅弘  
宮津市教育員会教育長職務代理者 速石直美  
宮津市教育委員会教育委員 田崎浩二  
宮津市教育委員会教育委員 尾崎里花子  
宮津市教育委員会教育委員 藤井陽子
- 5 事務局 永濱教育次長 早川学校教育課長 林崎社会教育課長  
東文化振興担当課長 大槻総括指導主事 垣中学校教育課参事  
小牧学校教育課学校教育係長 安達学校教育課学校給食・施設係長  
吉田社会教育課長補佐 細見図書館長
- 6 開 会
- 7 議 題 ■宮津市の教育の充実に向けて
- 8 そ の 他
- 9 閉 会

（開会 午後1時30分）

永濱教育次長

定刻になりましたので、ただいまから、令和元年度宮津市総合教育会議を開会します。

開会に当たり、城崎雅文宮津市長がご挨拶申し上げます。

城崎市長

皆さんこんにちは。市長の城崎です。本日は、御多用の中を御参集いただきまして誠にありがとうございます。教育委員会の皆さんには、山本教育長を先頭に、宮津市の教育行政の推進に日々御尽力いただいております。重ねて感謝を申し上げます。

総合教育会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この総合教育会議は、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって「教育のまち みやづ」に実現に向けて歩を進めていく上で重要な会議であり、私が一昨年7月に市長に就任して以来、2回目の総合教育会議となります。

前回の会議では、私の教育にかける考えや思いも皆さんにしっかりとお伝えをしながら、本市の教育の質が向上していけるよう、皆さんと意見交換をさせていただきました。

今回の会議においては、現在、宮津市の地域づくりの最上位に位置づけられる計画である令和3年度からの『宮津市総合計画』策定に向けた動きを進めていること、また、時を同じくして次の『宮津市教育大綱』を定めていく必要があることなどを踏まえ、「明日の宮津の教育の充実、教育のまち みやづの実現」に向けて、前回以上に踏み込んだ意見交換を皆さんとさせていただきたいと考えてございます。

教育は、「地域社会にとって未来への希望、未来への投資」だと思っておりますし、明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りや愛情が持てるまちづくりを進めていかなければならないと考えております。本日の議論を踏まえ、私の「夢と希望があふれ住み続けられるまちづくり」に向けた5つのビジョンの一つであります「ふるさとを大切に（教育）のまちづくり」に向けて、御尽力を賜りますようお願いを申し上げ、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

永濱教育次長

市長ありがとうございました。  
それでは議事に入らせていただきます。  
市長に議事をお願いします。

城崎市長

それでは議事に入ります。本日は、宮津市の教育の充実に向けて、2つのテーマに基づき、意見交換を進めていきたいと考えてございます。

■1つは、「教育の質の向上と教育環境の充実と地域と一体となって子どもを育む学校づくりに向けて」、2つに「生涯にわたる豊かな学び、ふるさと宮津への誇りと愛着の醸成に向けて」をテーマに意見交換を行いたいと思います。

具体の意見交換に入る前に、これまでの状況に係る共通認識を図るために、平成30年度の実施事業に係る点検評価委員からの意見書の内容を確認しておきたいと思っておりますので、事務局から説明願います。

早川学校教育課長

■平成30年度実施事業の事務事業の点検評価委員からの意見書からポイントを絞ってご説明申し上げます。

昨年度、城崎市長が就任され初めての総合教育会議を開催したわけですが、新しい市長の下で宮津市の教育施策全般にわたるテーマを設定し、活発な議論が展開され、宮津市の現状、成果、課題をよく理解することができる内容であったといただいております。

◆基本方針1「明日の宮津を創る子どもの育成」について

学校教育を中心とした分野につきましては、小中一貫教育の特徴の一つとして、学力向上プランを策定し、その取り組みを連動させており、こうした学力向上という共通の目標を明確にして、推進体制が適切に整備されていると評価いただいております。その質の高い学力の充実・向上を目標としており、小中一貫教育を進めることで何を実現しようとしているかがよく理解できる。その方針において、学力サポートコーディネーターや小中一貫教育専任職員を配置するなど人的な面でも充実している。このことにより、教員の授業力が高まり、学校の組織として教育力が高まることで、小中一貫教育を発展するために不可欠である。そして、小中一貫教育の観点から学力向上プランを実施していくことが重要である。また、いじめに関する対応についても小中一貫教育の体制の中で全体としての指導等の体制が整備されていると、ご意見としていただいております。

そうした中で、小中一貫教育は保護者、地域の理解を得ること

が欠かせないことから、現在、進めております、コミュニティ・スクールの仕組みを整備することが重要であり、こうした取り組みの中で、家庭、地域、学校が協働して小中一貫教育に取り組むことがいっそう促進につながるものと考えております。

◆基本方針2「生涯にわたる充実した豊かな学び」について

社会教育を中心とした分野につきましては、生涯学習の充実のために、公民館や図書館における様々な次行が進めてられており、特に、図書館の基本的運営方針が策定され、運営の初年度であった。市民に親しまれる図書館になりつつあるのではないかと。生涯学習を進めるにあたって、図書館はその中心になるものであり、その充実が重要である。それが教育のまちみやづにふさわしい環境が整えられていると言える、ご意見いただいております。また、生涯学習推進事業は、社会人を対象とした学習機会の充実が課題としており、事業の企画、実施に関わる取り組みのあり方を検討していくことが必要ではないかとご意見をいただいております。

◆基本方針3「誇りと愛着のある地域文化の保存・活用」について

宮津市の財産である文化財をいかに活用していくかは、まちづくりの点で重要な事業である。課題である、市指定文化財考え方の検討や啓発普及活動、活用がポイントであり、これらが、まちづくりを推進するうえで重要な課題となり、その進展が期待される。また、昨年度、歴史資料館の再開に向けた企画や検討が進められていたが、歴史資料館を充実させ、地域文化の保存や活用が進展することが望まれる、ご意見をいただいております。

◆全体としての課題について

小中一貫教育は、本格実施に向けてさらに充実していくものと思われるが、今後は、教育の質や成果に踏み込んで点検評価していく段階になっていくのではないかと。そして、小中一貫教育によって、実現しようとする学校のあり方、教職員や子ども、市民の姿を共有化し、それが実現しているかどうか、当事者の方々の実感もデータにしなから目標の達成を検証していくことが必要である。今日的課題としては、教職員の働き方改革についても、小中一貫教育の推進を目指して目標設定をし、取り組んでいくことが必要であると課題の提起をいただいております。

以上、簡単ではございますが平成30年度の事務事業の点検評価から、ご説明とさせていただきます。

城崎市長

本日は、今説明があった平成30年度終了時点での宮津市の教育施策実施に係る課題等を視点としながら、その後の現在まで進捗状況を確認した上で、意見交換を進めていければと思っております。

それでは、テーマの1つ目「教育の質の向上と教育環境の充実と地域と一体となって子どもを育む学校づくりに向けて」に入りたいと思います。この学校教育に係るテーマに関しましては、私は、現在、本市が推進している、就学前から10年間を見据えた小中一貫教育の推進などにより、教育の質を向上させ、教育環境を充実していくこと、そして、子ども達の育成のベースとなる

学校において、コミュニティ・スクールを導入することなどにより、地域と一体となって社会に開かれた教育課程を実現し、宮津の将来を担う子ども達を育てていくことが重要であると考えてございます。

意見交換にあたって、事務局から、このテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

早川学校教育課長

**【宮津市における小中一貫教育の推進について】**

○子ども達が確かな学力を身につけ、心身ともに健やかな子どもとして成長していけるよう、就学前から中学校卒業まで10年間を見据えた教育課程を編成し、それに基づいた系統的な教育を実施していくとして、平成28年度から取組みを進めているところです。

○この小中一貫教育のシステムを導入していく中で、10年間を見通した教育や指導による学力向上や異年齢活動の充実などにより、「明日の宮津を創る子どもの育成」を目指しています。

◆小中一貫教育の推進に係る進捗状況について

- ・中学校区ごとに、取組みを進めています。
- ・今年度から本格実施の栗田学院、宮津中学校と宮津小学校が8つの就学前施設と連携し、令和2年度から本格実施となる宮津学院、また、橋立中学校に進学する4小学校については、4小で一つの学校をイメージしながら、連携学習を進めているところです。

◆具体の取組

- ・「未来を拓く学校づくり」推進事業については、宮津学院が、京都府の研究指定を受け、小中一貫教育の推進の中で、保幼小接続に係る更なる充実に向けた取組を進めているものです。
- ・小学校での円滑な「まなびスタート」につなげるための指導力向上研修や小中学生による、修学前施設での読み聞かせ活動等の異年齢交流活動の充実、また、小学校4年生から中学校3年生までの一貫した学力向上の取組みについての研究。認知能力と非認知能力を一体的に育む実践的な研究を行うものがございます。今年度からの3年間の指定を受けて、今年度6月以降、宮津小中学校と8つの修学前施設が全体研修や外部専門家の助言、学校訪問を受けながら、保幼小中が連携した取組みを進めているところです。
- ・「ふるさとみやづ学」の取組みについては、宮津市の小中一貫教育の一つの柱的な取組みとして位置づけているところです。これからの時代を生き抜く宮津の子どもたち、将来への夢と希望を持ち、社会的自立を果たすため、自らを高める教育が必要であるとの考えのもと、自分を見つめ、将来の生き方を考える学習となるように、小中一貫教育の中で、ふるさとの学びに関しても系統性のある計画と実践により、キャリア教育の視点も踏まえ取組みを進めているところがございます。
- ・栗田学院「ふるさとみやづ学」の取組みの様子 P1-3
- ・「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の導入については、小中一貫教育の推進が、家庭教育や地域全体で共有され進んでいくためには、コミュニティ・スクールの導

入が必要であると考えています。将来的には地域学校協働活動の展開へとつながるように、今年度施行導入、来年度からの本格導入に向けて、現在、取組みを進めております。

- ・来年度の取組みについて（重点要求事項） P1-5
  - ①小中一貫教育の推進（宮津学院の本格実施）と学力向上プランに基づく質の高い学力の充実・向上
  - ②幼稚園給食開始に向けた施設等の整備
  - ③情報活用能力の育成と地域とともにある学校づくり
    - コミュニティ・スクールの本格導入に向けた取組み
    - 新学習指導要領の実施、プログラミング教育の円滑なスタートとICT環境の整備
    - 1人1台PC（GIGAスクール構想）
- ・教育フォーラムの開催（1月25日）
  - ◆小中一貫教育の取組み、宮津高校との英語教育充実連携協働プロジェクトの実践報告
  - ◆「ふるさとみやづ学」と「地域とともにある学校」についてのパネルディスカッション

城崎市長

ただいま説明がありましたが、本市の小中学生のいかに質の高い学力の充実・向上につなげていくか、そして、いかに地域と一体となって、明日の宮津を担う人づくりを進めていくかが大事だと思います。インプットをどんどん進めてきましたが、アウトプットの部分を今後はしっかりと見ていくことが大事だと思っています。

また、教育の質や成果に踏み込んで考えていく段階、家庭・地域・学校が協働して子ども達を育むいい流れをつくる段階に入ってきていると思いますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

速石教育長職務代理者

これまでは、ハード面の耐震やエアコンなどの整備が遅れていた部分の充実を図っていただいた。令和2年度は、これまで準備や取組みをしてきた小中一貫教育やコミュニティ・スクールなどソフト面の魂を入れる時期だと思っている。前井上市長には、ハード面の充実を行っていただいた。城崎市長には、是非、中身の学力向上とともに子ども達のやる気度を高めるような取組みをお願いしたい。小中一貫教育は、栗田学院の本格実施となりましたので、来年度の宮津学院の本格実施を仕上げていただきたい。コミュニティ・スクールという新しい動きもありますので、上手く、小中一貫教育とつなげていただければと思います。様々な仕上げの大事な年になると思っています。

田崎教育委員

学力向上の取組みだが、勉強、勉強とならないように、勉強をさせられているのではなく、何のために学習をするのか。自分が幸せに生きていくために、自分が将来なりたい姿になるよう何をして、どう勉強していくのが大切ではないかと思っている。

大学進学のために、宮津を離れるのは仕方ないが、ふるさとを思う気持ちを持ち、帰ってこようと思えるような、ふるさとみやづ学を進めてほしいと感じる。保護者も同じで、学校や先生に言われて勉強させているのではなく、地域の方も含めて、ふるさとの良さを伝えながら一緒に育てていけたらと思っている。

尾崎教育委員

子ども達が、学力をつける意味の根本的なところで、夢や希望を持ち勉強に励めるよう、地域全体での子育てができれば、宮津の良さに気付き、自分にもふるさとのために、こんなことができると思えようになることにあると思う。それが、学校で勉強をするだけではなく、地域の方が学校と関わり連携することで、地域で育てる、心を育てることになれば、子ども達が夢を持って豊かに育っていけるのではないかと感じている。せっかく、オリンピックが日本で開催される年なので、子ども達の心に残るような何か植えつけられるような宮津の取組みができればと思っている。

藤井教育委員

教育委員になって、今まで見えていなかったが、子ども達の周りには、ほんとうにたくさん方が関わり、手をかけてもらって育てているのだと感じています。コミュニティ・スクールの導入は、昔は当たり前前にできていたように、地域みんなで見守り、声をかけていくことで、自分が地域に育ててもらっている、愛されているという感覚が育まれると思うし、このことで、まち全体が育っていくのではないかと感じている。

山本教育長

ここ数年、ハード面の整備は随分進めていただいたと思っている。宮津の新しい教育を創造しようと、各校の校長先生方と取組んでいこうと意識を共有しながら進めています。宮津の新しい教育とはどんな教育なんだということ、核となる部分の共通認識をもつ必要がある。どこで学んだかではなく、何を学んだか、どう学んだか、学力を高めるだけの時代ではなく、宮津の教育を実施して必要があると考えている。学校で行う教育だけをしていたら、質・量ともに都市部の学校には劣っている。皆さんが言われたように、学校だけではなく、地域の皆さんで、子どもの教育に携わることで、地域・まちづくりになるのではないかと考えている。

宮津の教育について、どうしていくのかを地域で考え意見を出し合っていけたらと感じている。どこへ行っても通用する質の高い学力を身に付けてほしいと思うし、どこへ行っても、自分の支えとなるふるさとを育てていくことが、子ども達の将来にプラスになるのではないかと。コミュニティ・スクールを創ることが目的ではなく、このシステムを使って、地域の活動が活発になるように、教育＝学校の教育ではなく、教育は一生続くものとしてとらえてほしいと思っている。小中一貫教育を本格導入して終わりではなく、小中一貫教育の中で学んで育った宮津の子ども達は、一味違うなとなって初めて、その値打ちがあると思っている。コミュニティ・スクールもシステムが出来て機能したから良かったのではなく、機能することで、子ども達がより良い環境で育ち、地域も活性化していくものと思っているし、その中で、自分達の生活の向上に繋がっていかなければならない。

城崎市長

成果や効果がすぐにでるものではないし、目に見えるものでもない、難しい部分はあると思う。質の高い学力は必要ではあるが、それだけではなく生きる力、非認知能力の育成が大切であると思っている。そこを育てていくのは、宮津市で推進している就学前からの10年間の小中一貫教育であったり、コミュニティ・スクールを使って、地域で育てることなのかと感じている。

速石教育長職務代理者

コミュニティ・スクールの枠組みと同じなのかどうか分かりませんが、地域にある消防団の体制や規律のようなものが、必要なのではないか。中学生くらいはなかなかコミュニケーションが取りづらい年代なのかと思うので、そこで生まれる繋がりや、悪い事をしたら叱ってくれるような、親や先生とは違う大人との良い出会いをどう作っていくか、そういう場を与えられるかを考えていく必要があると思っている。

山本教育長

東京都足立区だったかでは、地域性で昼間は高齢者が多いため、実際に中学生の消防団があると聞いた。地域づくりの面でも子ども達も普段は見たこともないことを体験することで、将来にとって大きな意味を持つと思う。今の子ども達は、親と先生以外の第3の大人と出会う機会がどれだけあるか、どれだけ与えられるかが大きな事だと思っている。中学生の職場体験はキャリア教育の一環としてやっているが、第3の大人に出会わせて、仕事を一生懸命している姿を見せることが大事だと思っている。

田崎教育委員

非認知能力は多くの体験をさせることだと思っている。その場での協調性やがまんしたりする中で、自信が付いたり、気付きがあったり、そこでの自分の姿や立場を見つめることが大切ではないか。小さい時から小さい時でも、できる事はあるので、体験することは大きな意味があると思っている。

小中一貫教育の私立の保育園との連携はうまくいっているのか。

垣中学校教育課参事

初めは、連携の部分で交流を増やしていこうとしてきた。目指す子ども像や教育目標を共通認識として持つことで横の連携ができるようにしている。施設は多いが、小学校の就学に繋げていくために何ができるのか一つずつ取り組みを進めている。

山本教育長

教育長に就任した頃は、それぞれの園で保育・教育の方針がある中、同じことを進めていくことは難しいという意見が多かった。

そうではなく、同じ学校に就学する学年として、目指す姿を共通認識し共有することでスムーズな就学に繋げるようにすることだと、今では納得されている。昨年度は、毎月開催している経営委員会の会場を各園で持ち回るなどしていた。

4小連携も同じように、同じ橋立中学校に進学する同級生として意識づけを大切にして取組んでいる。また、高校進学や社会に出た時までを想定して、教育の軸にしていかなければならないと感じている。

「ふるさとみやづ学」は単なる総合の時間の学習だけではなく、他の教科とも関わっているし、小中一貫教育、コミュニティ・スクールを進めていくうえでの大きな軸となるものだと思っている。地域づくりにつなげるためには、大人の「ふるさとみやづ学」も必要だと思っている。

城崎市長

昨年、栗田小学校の子ども達の「ふるさとみやづ学」の発表を聞いていると、学習する前と後では、「魚の味が違うように感じる」、「海の色が違って見えた」と話された。この学習の重要性を実感した。

速石教育長職務代理者

「ふるさとみやづ学」の学習は、子どもには積み上がっていくと思うが、大人にも必要なのだと感じている。離れた所から見ると宮津の良いところが見えてくると思うが、住んでいる大人は色々な部分で当たり前になって、鈍感になってしまっている部分がある。社会教育分野だが、宮津市には、人口1万8千人ほどの市に観光客が300万人訪れる。他に例を見ないことで、誇りを持って良いと思うので、世界遺産登録に向けて、この現実を大人達がどう感じているのかと思う。

山本教育長

観光県は観光客のためにまちづくりをするのではなく、住んでいる人達が誇りを持って、楽しく、充実した生活を送っているからこそ観光客が来ると聞いたことがある。その通りだと思った。

そのために子ども達にも何ができるのかを考えていく必要がある。

様々なシステムは整ってきたので、これをいかに活用して中身を実践していくかだと思うので、宮津の新しい教育はどんな教育でどう進めていくのかを市長を交えて引き続き意見交流できればと考えている。

ICTの整備や推進などお金がかかることもあるが、子ども達の教育には必要なものであるので、またご相談させていただきたい。

永濱教育次長

どうしても中年以上の大人は、地域のことを否定的に捉えがちで、それを子ども達は感じて育っている部分がある。

18日(土)には、宮津中学生がふるさと提言の発表会がある。子ども達は宮津の良いところを見つけて、提案し意見交換してくれる。大人達は、鈍感で、どうしてもネガティブな発想になってしまっている。

藤井教育委員

今の子ども達は、宮津市歌を小中学校でしっかり覚えていて、学んだことは、子ども達の中に根付いていると感じている。

これもふるさと学だなと思った。

尾崎教育委員

同じものを見て聞いても、感じ方は大人と子どもで違うと思うが、様々な体験をして、子どもは感性を磨いていると思うが、大人はそういう機会が少ないのかなと感じている。

城崎市長

次に、二つ目の「生涯にわたる豊かな学び、ふるさと宮津への誇りと愛着の醸成に向けて」をテーマに意見交換を行いたいと思います。

この社会教育に係るテーマに関しましては、図書館の機能強化、公民館活動の充実やスポーツを通じた元気づくりなどにより、いかに生涯にわたる豊かな学びにつなげていくか、また、重要文化的景観の保全・整備や文化・芸術活動の促進などにより、いかにふるさと宮津への誇りと愛着を醸成していくかということが重要であると考えてございます。そして、これらの動きをまとめた上で今後の方向性を示していかなければならないと考えてございます。

意見交換にあたって、事務局から、このテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

【生涯にわたる豊かな学び、ふるさと宮津への誇りと愛着の醸成に向けて】

○人間関係が豊かな社会は、お互いに信頼しあえる安全・安心な社会、協働しあえる社会をつくり、それは一人ひとりの生活や人生の豊かさに還元されていくもので、生涯学習活動は、「まちづくり」の土台を担う「人づくり」に繋がるものであるという認識のもと、一人ひとりの学びを推進しているところです。

○生涯学習の拠点として、公民館、図書館等を中心とした各種取組みのほか、青少年教育、人権教育等の取組み、歴史・文化を活用した「ひとづくり・まちづくり」を推進しているところです。

○生涯学習は、個々の学ぶ楽しみの発見から、学びを通じた人間関係づくりや社会参画、また、学習成果を活かした地域づくりへと繋げるため、市民が主体的に生涯学習に取り組む、学習成果を適切に生かすことができる社会の実現を目指す必要があると考えています。

◆取組みの視点

- ・ライフステージに応じた学習機会の充実
- ・地域課題に対応した学習機会の充実
- ・学習成果を活かした地域づくりの推進
- ・地域に誇りと愛着が持てる学びの場づくり
- ・多くの主体が連携した持続可能な地域づくり

○令和3年度からの次期教育振興計画の策定作業の中で、今後の策定作業の中で、今後の生涯学習のあり方、取組みの方向性等について、改めて議論を深めてまいりたいと考えています。

○行政として生涯学習の推進について、何が出来るのか今後の方向性ですが、市民が生涯学習の関心を高めて一人一人が各段階に応じた学びや活動ができ、その活動や学習成果が地域に広がり宮津のまちづくりが活性化するように、環境づくりや活動の支援に努める必要があると考えています。このために庁内の連携、推進体制の整備が行政の役割になると考えています。

○宮津市立図書館の利用状況等についてです。平成29年11月に商業施設内に新図書館をリニューアルオープンするとともに、図書館管理運営事業における「宮津市立図書館基本的運営方針」を策定し、4つの基本目標を掲げ各種の施策を展開しているところです。

◆入館者数:148,193人 [目標値 75,000人]

◆貸出人数:38,599人 [目標値 40,000人]

◆貸出冊数:145,026冊

◆市民一人当たり図書貸出冊数:9.4 [目標値 10冊]

○入館者数、貸出冊数は移転前と比べて大幅に伸びているものの、年代別の貸出者数で、特に中高生の貸出人数が少ないことから、今年度は、この年代をターゲットにした取り組みを進めております。具体的には、推薦図書リストの作成や司書の学校訪問を行い、学校と連携を深めています。今後におきましても市民に親しまれる図書館として、生涯学習の拠点として利用促進を図っていくとともに学校や子育て支援センター、公民館等とも連携をいたしまして、生涯学習環境の多面的活用を図り、市民の生涯学習の機会の充実に取り組んでまいりたいと考えています。

○スポーツに関してでございます。2019年から2021年にかけて「ラグビーW杯」「東京2020オリンピック」「ワールドマスターゲ

ームズ 2021 関西」と3年に亘る国際スポーツイベントが日本で開催される中、2020年には宮津でも5月に聖火リレーを実施することとなりました。こうした事業を行うことで、市民に夢と希望を与える機会の創出を図るとともに、一人一人に豊かな「スポーツごころ」を育む機会とし、こうした機会を契機に市民がスポーツに関心を持ち、スポーツに取り組むきっかけとなるよう各種施策を展開しているところです。

○東京 2020 オリンピック聖火リレーについてでございます。主な取り組みとしては、聖火ランナー、サポートランナーとして小中学生や市民が参加をするものです。市民が現地に足を運んでいただけるよう情報発信に努めるとともに、市民ボランティアとして参加を募り、より多くの方に関わっていただけるよう取り組みとするものです。また、オリンピック・パラリンピアンを招聘して、小中学生を対象にオリパラ学習会を開催することとしております。

○その他の取り組み状況について

◆市民スポーツDAY

・今年度市民スポーツDAYを初開催いたしました。当日は約200名の市民の参加があり、様々なスポーツをふれていただけたところです。来年度も同様の取り組みを計画していくこととしておりますが、SOMPOボールゲームフェスタ 2020 が当市で開催され、プロのアスリートが子ども達にスポーツの楽しさや指導をするもので、市民スポーツDAYと連携イベントとして開催したいと考えております。

◆市民体育館

・ランニングマシンの更新

◆巡回ニュースポーツ教室

・スポーツ推進委員によります各地区での巡回ニュースポーツ教室の開催

○地区公民館の取り組みについて、地域の公民館活動の充実を図っていく中で、令和2年度は日置公民館の移転改修を予定しております。また、活動の見直しということで、それぞれの地域が連携した取り組みが進めていければと考えています。

○生涯スポーツの推進につきましては、先ほど申しましたオリンピックの聖火リレーの開催を重点としてあげています。

東担当課長

【文化財の保存と活用について】

○近年の文化財保護・まちづくりに係る進捗成果

- ・ H2～H17 「宮津市史」編纂刊行
- ・ H7～H11 旧三上家住宅の整備
- ・ H9～H13 宮津市歴史資料館の整備（H19から休館中）
- ・ H14～ 市内遺跡発掘調査
- ・ H19～ 天橋立世界遺産登録・まちなか観光等の取り組み
- ・ H20～ 文化的景観の取り組み
- ・ 継続 府・市指定文化財の指定等、継続的な文化財の調査と価値付け
- ・ H26 北前船港まちづくりの取り組み

○施策テーマ「ひとづくり・まちづくりに資する文化財の保全と活用」について、市内文化財等の悉皆的調査とその総合的な把握を通じ、本誌の豊かな歴史文化の特徴や価値を明らかにし、個別の文化財の保全を図りつつ、ひとづくり・まちづくりに資するこ

とができるよう、総合的な文化財保護・活用について、そのあり方を模索・検討の上推進するものです。

○「宮津市文化財保存活用地域計画」の作成について

◆当市の歴史文化の総合的把握を通じ、「ひとづくり・まちづくり」に資することができるよう、文化財保護・活用に係るマスタープランを作成する。

・策定期間 R2～R3年度

・備考

- ・協議会を組織、市民と一緒に調査検討を進める
- ・策定後5～10年間の実施施策を計画を盛り込む
- ・期間中、普及啓発事業（講演会等）の予算計上が可能（学校・社会教育と連携、また資料館を活用した体験講座等）

◆関連文化財群（文化財を「群」としてとらえ、物語に基づいた保存・活用を推進）として整備し、地域資源、ブランドの明確化をするもの。

○宮津市街地地区の重要文化的景観の選定（継続 ～R3）

○天橋立世界遺産登録の推進（継続）

○その他（継続）

- ・市内文化財の指定・登録等の推進
- ・市内遺跡（安国寺遺跡）発掘調査事業
- ・旧三上家住宅の保全と更なる活用
- ・休館中の歴史資料館を活かした体験講座等の実施

永濱教育次長

今、それぞれ社会教育課所管分を説明しました。個々には、様々な事業を展開し、取り組んでいるが、ひとづくりや地域づくりに繋がっていくことが課題だと思っています。それぞれが自己研鑽のために学んでいるが、これが上手く地域に還元できたり、関連、連携できれば、自分達の喜びになったり、次の学びに繋がったりと考えている。学校教育にも同じことが言えるので、そういった視点で御意見をいただけたらと思っています。

田崎教育委員

行政の取り組みの方向性について、個人の学びが地域に還元されるまちづくりということが、学校教育のコミュニティ・スクールにつながるようになるもので、大人もだが、シニア世代の力が必要なことだと思う。

尾崎教育委員

生涯学習全般をみても、昔に比べても元気な高齢者が多い。それは、生涯学習をやっているから元気なんだと。年をとってもみんなが元気で現役で何かができるということが、それぞれが自分のできることをやっていくことが生涯学習なのかと思っている。それが、まちづくりに繋がっていくものだと思う。

速石教育長職務代理者

図書館の移転オープンは成功例だと思うし、生涯学習の場として、活かして、もっともっと広がりのあるものにしてほしいと思う。

藤井教育委員

義父母もすこやか大学等に積極的に参加しているが、取り組みや発表などをもっともっと市民にPRしてほしい。シニア世代も知らないだけで個々でも参加できる事があると思うし、地域での役割も生きがいの面からも重要だと思っている。私達は、仕事で社会と繋がっているけど、高齢の方は、地域とのつながりが薄いと孤独感等があるのかと。もっと子どもから高齢者までが社会全体の色々な世代

の人と交流が持てたら、生涯学習が広がっていくのではないかと感じている。

山本教育長

公費を使って生涯学習を実施する意味は何か。個人の学習ならカルチャースクールなどを利用してもらうが、これとは違うまちづくりに繋がる取組み、学びの後の地域での活かし方などの構築が必要だと思っている。学んだことを社会、地域に還元していくシステム作りが行政の役割ではないかと思っている。学びの場はあって、個々の学びができて、それを活かせる場がなかった。資料にあるように、図書館などの取組みは取組みで頑張っているが、利用しやすい、役に立つ図書館作りが、個々の学びで終わってしまわないようにしなければならない。

城崎市長

都市部では、様々な教室やサークルがあって、それは民間が個人の楽しみのためにやってきたもの。これからの時代は行政だけで、市を運営していくのではなく、市民が参加するようにしなければ、市全体の活性化にもならないと思っている。生涯学習の役割も個の楽しみだけではなく、個と公を繋げるシステムをつくらないと行政が生涯学習をやる意味がないのかなと思う。地域の課題を見つけて、それを解決するために、地域で知恵を出し合い勉強してまちづくり、活性化を図っていきたいと考えている。

山本教育長

平成 5, 6 年ごろに福知山市で聞いた話だが、当時、青垣町は山間部にあったため、救急車を要請しても 20 分ほどかかったため、待つ間に自分達で愛する人を守るための手段として、公民館活動として、町民全員が救急救命講習を受け、学び身に付ける取組みをされたと聞いた。まさに生涯学習だと感じた。

速石教育長職務代理者

今の時代は、行政にすべて任せるのではなく、地域や市民ができることはしなければならない。これが生涯学習に繋がると思う。

城崎市長

そういう意識を良い方向へ持っていかなければならない。地域の人が地域の事を誇りに思うことが大事で、目に見えるものではないので難しいが、市民の知識の高さが高いまちになれば、市にとってとても大きな価値になると思うので、そういった意味でも生涯学習は大切だと思っている。

財政的にも厳しい面もあるが、自助、共助の部分も重要だと感じているので、歴史や文化財の調査・研究をきっちりしたうえでの活用につなげていきたい。

山本教育長

郷土の歴史や文化などに興味を持つことは大事だと思うし、安国寺遺跡の発掘現場に府中小の子ども達が見学に行ったことが、その子の中に何らかの形で残り、将来への何かのきっかけになるかもしれない。ならなくても、どこに行っても、心の支えになるふるさとに繋がればと思っている。

一方で、宮津の教育をどういう方向性に持っていくのかを議論することが大切なことだと思っているので、今回は、学校教育と社会教育・文化振興にテーマを分けて総合教育会議を持てたことは貴重な時間だったと思っているし、機会があれば、市長部局の方も参加いただいて、宮津の教育をみんなで考えていけたらと思っている。

永濱教育次長

総合計画を策定する前の市民とのワークショップが始まろうとしている。生涯学習は、1つの講座をやめたからといって、市全体の何かが変わる訳ではないが、手を抜いていくとだんだん体力が落ちていくものだと思うので、人づくりというものは、色んな取組みの積み上げによって成り立っているのかなと感じている。どうしても、事業をすることが目的のようになりがちだが、いかに広げていくかということに注力しながら、いただいた意見を今後の教育行政に活かしていけたらと思います。

速石教育委員

2020年度は教育の大切な年となる。現在の充実した体制を継続していただきたいと思っている。

田崎教育委員

教育委員になるまで、学校教育と社会教育は別だと思っていたが、一生学習という観点から学校教育が終わった後、生涯、社会教育なんだと、改めて認識した。シニア世代になっても、自分の役割のようなものがあると生きがいにもなると思うので

城崎市長

今後も市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、「教育のまち みやづ」を実現し、ふるさとを大切にする教育のまちづくりを進めていけるよう、この総合教育会議で議論を深めていければと考えております。

明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りや愛着が持てるまちづくりをしっかりと進めていきましょう。今後とも定期的に開催していければと考えております。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了したいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。

(閉会 午後4時10分)